

3 4 スクミリングガイ (ジャンボタニシ)

A 発生生態

- 1 平坦地の水田、水路、河川、湖沼に生息する雑食性の貝である。
- 2 生存期間は2～3年と長く、殻高（殻の底面から先端までの長さ）50mmに達する大型の貝である。
- 3 冬季は、水田や水路の土中に潜り活動を停止する。4月上旬頃から活動を開始し、10月頃から再び土中に潜る。水田では、入水後、収穫まで活動する。
- 4 雌貝は、ふ化後、約50日で産卵可能な殻高20mmまで生長し、死亡するまでの2～3年間は4月から10月の活動期間に連続して産卵を行う。
- 5 卵塊の色はショッキングピンクで、水面より上、水田では稲株の茎や波板、畦畔、水路の壁面に産卵されるためよく目立ち、生息の有無が容易に確認できる。
- 6 稲株の水面下にある部分を歯舌で舐めるように食害する。
- 7 直播栽培では出芽時から種20日後、移植栽培では移植から移植14日後までの被害が大きいの。特に、直播栽培で被害が大きく、1頭/m²の密度でも苗立ち率0%となる。
- 8 冠水や増水、人が持ち運ぶことで分布を拡大する。一度侵入すると根絶は非常に困難である。

スクミリングガイと卵塊



被害の状況



B 化学薬剤以外の防除方法

- 1 冬期間に耕起し、土壌中で越冬している貝の殻を破碎する。温度が低下する1月から2月の耕起やピッチ幅を狭くした耕起、複数回の耕起は効果が高い。
- 2 産卵5～10日後の卵塊は水中への払い落とし、暗赤色や黒色のものは圧殺する。これらの作業を地域全体で定期的に行うことで次世代の密度を低下させる。
- 3 水路、水田内の貝を捕殺する。
- 4 水路から水田への侵入を防ぐため、取水口および排水口は金網（4mm以下）で覆う。さらに、排水口は、常に排水路の水面より高くなる場所に配置する。
- 5 深水管理すると被害が大きくなるので、発生が多い水田では水深1cm以下の浅水管理を行う。
- 6 移植時期の早進化、成苗移植により被害を軽減する。
- 7 除草を目的とする水田への放飼は行わない。

C 薬剤防除のポイント

- 1 農薬登録をしていない石灰窒素は防除に使用できない。登録の有無を確認し、農薬登録がある石灰窒素を使用する。
- 2 移植前に石灰窒素を施用する場合は、商品や製造会社で使用方法が異なるため、必ず使用前に使用方法を確認する。
- 3 石灰窒素は窒素肥料としての肥効があるので、使用した水田での施肥量には注意する。また、薬害の発生にも注意する。
- 4 メタアルデヒド剤（IRACコード：8）は、貝が摂食等することにより効果が現れるため、処理前に他のスクミリングガイ防除剤を使用しない。



農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報入手してください。

熊本の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

